

令和7年度

学校評価報告書



岩見沢市立北村中学校

□学校の概要

校長名	酒 井 誠			教職員数	16 名
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計
学級数	1	1	1	2	5
児童数	17	15	14	4	50
住 所	岩見沢市北村中央4725番地				
電 話	0126-56-2021				
FAX	0126-55-3120				
UR-L	http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/index.php/contents/item/1506563				
e-mail	kitamura@edu.hamanasu.com				

I 学校教育目標

たくましい開拓精神を受け継ぎ、誇りと自覚をもち力強く歩む生徒

自 立 [自分で考え、正しく判断し、行動できる生徒]

～自らを律しながら主体的・創造的に自己の生活を営む姿～

共 生 [ほかの人との関わりを大切にし、協力してものごとを行う生徒]

～自己と他者との狭間で葛藤しながら、共に生きる立場を選択する姿～

挑 戦 [新しい自分を発見しようと努力する生徒]

～自己の領域を超え、新たな自分を発見しようと努める姿～

小中一貫教育目標

共に高め合い未来を創る力を育む学校の創造

II 令和7年度の重点目標

- ① 学び続ける学校 [チームで支える持続可能な協働体制の構築]
- ② 授業づくりで学校づくり [生きる力を確実に育成する授業改善の推進]

III 具体的方策

重点①： 学び続ける学校 [チームで支える持続可能な協働体制の構築]

(1) 学校運営の充実

- ◎ 運営資源の総動員による学校運営の充実
 - ① 校務運営組織の工夫による組織力の強化
 - ② 全教職員の学校運営への参画意識の一層の向上
 - ③ 学校評価の工夫と評価結果を踏まえた改善方策の明確化

(2) 教育課程の編成・実施等

- ◎ 社会に開かれた教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの充実
 - ① カリキュラム・マネジメントに基づく特色ある教育課程の工夫・改善の推進

- ② 地域の教育資源を活用した教科等の年間指導計画を見直し、地域に根ざした学びの充実
- ③ 各種調査結果等を組織的に分析し、課題を的確に把握し、効果的な改善策の実行
- ④ 教育目標を踏まえた実効性のある教科担任制、相互乗り入れ授業、合同授業、相互授業参観等の展開による教職員間の連携と指導力の向上の促進
- ⑤ 児童生徒のよりよい成長と学びの質を高めるための「授業時数特例校制度」および「1単位時間の弾力化」の効果的な活用と推進

(3) 専門性の向上を図る研修活動の充実

- ◎ 教職員が自ら専門性の向上に努める研修の充実
- ◎ 服務規律の保持・徹底に向けた取組の充実
 - ① 統一感・一貫性のある校内研修の推進と活性化
 - ② 「学校づくり＝授業づくり」の視点に立った「学び続ける学校」への組織的な改善
 - ③ 外部講師を活用した課題研究及び今日的な課題に対応した実践研修の推進
 - ④ 各種研修講座や研究大会、各校の公開研究会等への計画的な参加と校内への還元
 - ⑤ 次期学習指導要領の改訂議論等を踏まえた取組の充実
 - ⑥ 服務規律の確立や法令遵守の徹底によるコンプライアンス意識の一層の向上

(4) 安全・安心な学習環境の充実

- ◎ あらゆる危機に対応する危機管理体制の充実
 - ① 教職員の危機管理意識に基づく危機管理体制の整備と迅速な対応の徹底
 - ② 定期的な安全点検による危険箇所等の確認及び修繕
 - ③ 安全教育、防災教育、防犯教育を家庭や地域、関係機関と連携し実施
 - ④ 情報モラル教育や薬物乱用防止教育等を通じて、児童生徒の健全な成長を支援
 - ⑤ 児童生徒が自己肯定感を高め、自らの判断で命を守る力を育むとともに、ストレスやトラブルに適切に対処できるよう支援する体制の整備

(5) 家庭・地域・関係機関等との連携

- ◎ 小中一貫教育の推進・充実
- ◎ 信頼される開かれた学校づくりに向けた連携・協働の充実
 - ① 「めざす子ども像」の共有、学びの連続性を実現する校種間連携の推進
 - ② 義務教育9年間を見通した組織的な学力向上とピア・サポートの推進
 - ③ 北村中学校区学校運営協議会(コミュニティ・エリア)を基盤とした「地域とともに歩む学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の推進
 - ④ 地域の人材や資源を活用するとともに連携の強化による教育活動の推進
 - ⑤ 小中一貫した教育活動及び合同行事等の企画と実施を通じて、児童生徒の一体感を高めるとともに、地域社会とのつながりを強化
 - ⑥ 保護者との信頼関係の構築、保護者や地域住民が来校しやすい環境づくりの推進
 - ⑦ 少年団活動・部活動地域展開の推進

(6) 働きやすい職場環境の醸成

- ◎ 教職員が健康でやりがいを持てる環境づくりと実効性ある働き方改革の推進
 - ① 児童生徒を徹底して大切にす教育の実現に向けた「学校における働き方改革」の充実
 - ② 同僚性と協働性を重視した支え合いと協力によるストレス軽減、業務効率化、職員の健康とモチベーションの向上
 - ③ 「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画(第3期)」等を踏まえた働き方改革の推進
 - ④ 「岩見沢市の部活動の在り方に関する方針」に則り策定した「北村中学校の部活動に関する活動方針」等を踏まえた少年団活動・部活動の推進

(7) 学校事務の充実

- ◎ 教育活動の充実に資する財務管理等の学校事務の充実
 - ① 学校の課題を踏まえ教育効果を高める効果的・効率的な事務処理の推進
 - ② 短期・中期・長期的な展望に立った積極的な予算の要望や執行
 - ③ 公文書や備品の適切な保管・管理と適正な会計処理の推進

重点②:授業づくりで学校づくり 「生きる力を確実に育成する授業改善の推進」

(8) 学習指導の充実

- ◎ 自立した学習者を育て、資質・能力を育成する指導の改善・充実
- ◎ ICTの効果的活用等による「個別最適・協働的な学び」の充実
- ◎ 岩見沢型ピア・サポートの学習集団づくりの充実
 - ① ICT機器を最大限に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、子どもたち一人一人を主語とした授業づくり(自立した学習者の育成)
 - ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善による確かな学力の追求
 - ③ 身に付ける資質・能力を明確にし、「授業の基本型」を基盤とした授業の展開
 - ④ 子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開
 - ⑤ 「学習スキルの向上」と「学習ルールの徹底」による児童生徒の学びの形成
 - ⑥ 岩見沢型ピア・サポートを土台とした「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく学習集団づくり
 - ⑦ 外国語指導助手の効果的な活用と「英語が使える岩見沢の子ども」の育成
 - ⑧ 読書に親しむ習慣や学びに向かう態度を身に付ける読書活動の推進
 - ⑨ 検定・資格試験への積極的な挑戦を奨励し、児童生徒の挑戦心と学習意欲の向上を支援

(9) 生徒指導の充実

- ◎ 児童生徒に寄り添い自己肯定感を高める指導の充実

- ◎ 発達支持的生徒指導、包括的生徒指導の充実
- ◎ プロアクティブな生徒指導としてのピア・サポートの充実
 - ① 「学校いじめ防止対策基本方針」に基づく対応、「いじめの積極的な認知」と「いじめ見逃しゼロ」をはじめとした組織的ないじめ対応の充実
 - ② 日常的な教育相談活動等による児童生徒理解の推進
 - ③ 不登校の未然防止及び関係機関との連携等による不登校対応の推進
 - ④ ICT機器の適切な活用を図る、啓発資料・出前授業等による情報モラル教育とメディアリテラシーの向上
 - ⑤ 小中協働によるピア・サポートの推進

(10) 道徳教育の充実

- ◎ 児童生徒の心に響き人間としての生き方についての考えを深める指導の充実
 - ① 生命を大切に、豊かな人間性・社会性を育む「心の教育」の推進
 - ② 「考え、議論する」道徳科を要として教育活動全体を通じて行うしなやかな道徳教育の推進

(11) 体育及び健康安全指導の充実

- ◎ 児童生徒が主体的に健康の保持・増進に取り組む指導の充実
 - ① 新体力テストによる体力の実態把握と体力向上の取組(1校1実践)の推進
 - ② 義務教育9年間を見通した運動の習慣化に向けた取組の推進
 - ③ 望ましい生活習慣の定着や自ら健康管理を行う保健指導等の推進
 - ④ 学校給食を教材とした望ましい食習慣の形成等、家庭・地域等と連携した食育の推進

(12) 総合的な学習の時間の充実

- ◎ 児童生徒が自ら目標を定め探究課題の解決に取り組む指導の充実
 - ① ふるさとに愛着と誇りをもつ「ふるさと教育」や、将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育む「キャリア教育」の推進
 - ② 関係機関との連携や地域の教育資源の活用による学ぶ機会の設定
 - ③ 「マイ・ノート」(キャリア・パスポート)を活用した学習履歴の引継ぎ

(13) 特別活動、学級経営の充実

- ◎ 児童生徒が様々な集団活動で互いのよさや可能性を発揮する指導の充実
 - ① 支持的・親和的な人間関係を育む「ピア・サポート」の推進とQ-U及びアセスの活用
 - ② 一人一人に寄り添うきめ細かな学年・学級経営による児童生徒と教師の信頼関係の構築
 - ③ 児童生徒のよさや可能性を伸ばし、集団への所属感・連帯感を深め、よりよい人間関係の形成に資する学校行事、児童会生徒会活動、クラブ活動・部活動の工夫

(14) 特別支援教育の充実

- ◎ 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
 - ① 「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」に基づく指導・支援及び引継ぎの充実

- ② 校内委員会の機能強化による就学支援、特別支援学校との連携(パートナー・ティーチャー派遣等)、通常の学級に在籍する児童生徒に対する指導・支援の充実

[今年度の到達数値目標] 達成:青字 未達成:赤字

- (1) 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国比100以上
国語:84.7 数学:74.5 理科:97.3
- (2) 標準学力検査(NRT)の学力偏差値を50以上
1年生 国語:44.3 社会:42.1 数学:42.2 理科:45.1 英語:47.6
2年生 国語:50.6 社会:50.7 数学:51.6 理科:51.1 英語:53.2
3年生 国語:45.6 社会:46.3 数学:46.6 理科:44 英語:48.3
- (3) 新体力テストのスコアを全国平均以上(50が全国平均)
男子:48.9 女子:46.8
- (4) 学校評価保護者アンケートの項目全てで肯定的回答を80%以上、A評価を40%以上
肯定的回答80%以上:0/13問 A評価40%以上:0/13問
- (5) 学校評価児童生徒アンケート項目全てで肯定的回答を80%以上、A評価を40%以上
肯定的回答80%以上:18/21問 A評価40%以上:20/21問
- (6) 授業アンケート(児童生徒対象)項目の全てで3.5ポイント以上
3.5ポイント以上:32/79問
- (7) 家庭学習時間、中学生「学年×20分+60分」の達成率を100%
家庭学習は毎日している 13/50人
- (8) いじめ調査アンケートの児童生徒の回答で「誰にも相談しない」項目の回答数を0人
3/50人(今年度最終2月アンケート)
- (9) 校舎施錠時刻月平均19時迄の達成率を100%
達成できなかった

IV 各種評価結果と改善策

次頁以降参照

令和7年度 教育活動に関する学校評価アンケート結果について

【 生徒アンケートから(全学年集計) 】

【5:よく当てはまる 4:大体当てはまる 3:どちらでもない 2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない】

数値は、割合(%)となっており、5段階の平均値を最右欄に表記しています。

1 学校の取組について	5	4	3	2	1	平均
(1) 学校は、漢検や英検などの各種検定試験に挑戦できる環境を整えている。	60	21	10	6	2	4.3
(2) 学校は、いろいろな応募コンクールを紹介し、挑戦できる環境を整えている。	52	19	17	8	2	4.1
(3) 学級活動は、話し合いによっていろいろな内容を決めている。	52	40	8	0	0	4.4
(4) 生徒会活動は、話し合いによっていろいろな内容を決めている。	75	19	6	0	0	4.7
(5) 学校は、災害や不審者、薬物、IT 関連の犯罪などから自分たちの身を守る知識や対処法を教えている。	63	27	10	0	0	4.5
(6) 学校は、成長期にある自分たちの体や性についての知識や適切な態度を教えている。	63	27	10	0	0	4.5
(7) 行事(学校祭、体育大会など)は内容が充実している。	75	21	2	2	0	4.7
(8) 学校は、学校生活のいろいろな場面を通して、ともに支え合うことの大切さを感じさせる活動をしている。	69	27	4	0	0	4.6
(9) 学校は、地域の人との学習(職場体験学習等)を通して、地域とのつながりを大切にしている。	63	25	10	0	0	4.5
(10) 学校は、北村小学校とのつながりを大切に活動に努めている。 (エンジョイタイム、北村塾、ピア・サポート、乗り入れ授業等)。	73	25	2	0	0	4.7

2 学習・授業について	5	4	3	2	1	平均
(1) 先生方は、いろいろな ICT 教育機器を効果的に使い授業をしている。	58	29	13	0	0	4.5
(2) 先生方は、授業中や授業以外の時間(休み時間、放課後、夏・冬休みなど)でも分からないことや疑問に思ったことを適切にアドバイスしてくれる。	62	29	6	0	0	4.6
(3) 授業中、自分の考えや自分なりの答えなどを決める時間がある。	71	27	2	0	0	4.7
(4) 授業中、自分の考えや自分なりの答えを発表したり意見を交換したりする場面がある。	73	23	4	0	0	4.7
(5) 授業では、ペア・グループ学習など工夫がなされている。	77	19	4	0	0	4.7

3 自分自身について	5	4	3	2	1	平均
(1) 家庭学習は毎日している。	27	31	23	29	0	3.7
(2) 学級活動で自分たちで決めたことを自分たちで責任を持って行うようになってきた。	52	33	10	4	0	4.3
(3) 生徒会活動で自分たちで決めたことを自分たちで責任を持って行うようになってきた。	58	23	15	4	0	4.4
(4) 学校生活のいろいろな場面を通して、将来のことを考えるようになってきた。	42	46	13	0	0	4.3
(5) 朝読書などを通して、いろいろな本を読む機会が増えてきた。	40	33	21	4	2	4.0
(6) 地域との学習を通して、自立することができるようになってきた。	63	29	6	2	0	4.5

4 学校に対する意見や要望があれば書いてください。(施設面以外で)「自分たちが今以上に誇りに思える・自慢できる北村中学校にするために」という視点で書いてください。

・今年度なし

《考 察》

「学校の取組について」の項目では、全項目で平均 4.0 以上という高い評価となりました。この結果を真摯に受け止め、さらなる工夫・改善に努めてまいります。とりわけ各種検定やコンクールについては、生徒がより挑戦しやすくなるよう、周知方法を工夫し、意欲を引き出せる環境づくりを推進してまいります。

「学習・授業について」の項目では、全項目で平均 4.5 以上という極めて高い数値となりました。これは小学校との連携を強化し、継続的に取り組んできた校内研修の成果であると分析しています。今後も組織的・計画的な授業改善をさらに推進し、生徒一人ひとりに寄り添った質の高い学びの場を提供してまいります。

「自分自身について」の項目では、例年と同様に「家庭学習の取組(3.7)」が他の項目に比べて低い傾向にあります。今後は「適切な家庭学習の量」や「効果的な宿題の出し方」を校内で再検討するとともに、保護者懇談会等を通じて学習や進路に関する情報共有の機会を増やしていく必要があると考えております。朝読書については、「読む時間」の設定と「読みたい本」の設置、その上で「読書が楽しい」と感じられる環境づくりを一層充実させてまいります。

【 保護者アンケートから(全学年集計) 】

表研究は生徒アンケートと同じです

1 学校の取組について	5	4	3	2	1	平均
(1) 学校は教育活動を保護者に理解・協力してもらえるよう、行事や日常の活動について情報を発信している。	27	48	22	2	0	4.0
(2) 学校は、保護者から理解を得られる教育活動をしている。	19	42	25	13	2	3.6
(3) 学校は、地域の人との学習を通して、地域とのつながりを大切にしている。	10	52	35	2	0	3.7
(4) 学校は、生徒の自主性を尊重し、生徒会・学級活動などを通して、自らの責任を果たすことの大切さを指導している。	27	48	23	2	0	4.0
(5) 学校は、生徒会・学級活動や授業などで、話し合いを大切にし、コミュニケーション能力を高める指導をしている。	25	48	25	2	0	4.0
(6) 学校は、基礎・基本の定着や学力向上のため、授業や様々な場面での学習支援を実施している。	15	40	38	8	0	3.6
(7) 学校は、授業形態を工夫して「わかる授業」を目指し学習を進めている。	10	38	46	6	0	3.5
(8) 学校は、「豊かな心」の育成のため、道徳教育や読書活動などの充実を図っている。	17	46	33	4	0	3.8
(9) 学校は生徒の安全確保のため、災害時の対応や不審者対策、薬物乱用防止、性やITに対する情報の提供や指導を行い、身を守るための指導を行っている。	15	58	25	2	0	3.9
(10) 学校は、家庭学習の習慣化の必要性を家庭に働きかけている。	15	44	33	8	0	3.6
(11) 学校は、生徒一人ひとりの能力の伸長を図るために、各種検定やコンクールなどへ挑戦できる環境を整えている。	15	33	50	0	2	3.6
(12) 学校は、北村小学校とのつながりを大切に教育活動に努めている。	23	42	31	2	2	3.8
(13) 学校は、地域・保護者と協力し、「自立する子供(自ら考えを持ち、自身の力で学びを進め深めていく子供)」の育成に取り組んでいる。	19	33	44	2	2	3.6

《 考 察 》

(1)	今年度の結果を昨年度と比較すると、全体的な数値に大きな変化はなく、本校の教育活動は概ね安定した評価をいただいております。特に、項目(1)の情報発信については、全学年平均が 4.0 に達したことは、近年にない「よい傾向」として捉えています。今後も
(2)	学校・家庭・地域が密に連携し、子どもたちが自らの成長を実感できるよう、引き続ききめ細かな情報発信に努めてまいります。
(3)	生徒たちの「自分たちの生活は自分たちで創る」という意識の高まりが、各行事や話し合い活動の充実につながり、保護者の皆様からも肯定的に評価されたものと受け止めております。今後も「自立・共生・挑戦」という教育目標の達成に向け、活動の目的を生徒自身に再確認させながら、主体的な成長を促す働きかけを行ってまいりたいと考えております。
(4)	学習支援や校内研修の取組については、平均 3.5～3.6 に留まっており、他の項目と比較して「どちらともいえない」という回答が多く見られます。今後は、学習支援の進捗や授業改善に向けた取組等を、学校だよりや懇談会等を通じてより積極的にお伝えしていく必要があると考えております。お子様の学力向上という確かな成果を具体的にお示しすることが、保護者の皆様の信頼向上につながるかと捉え、一層の授業研究と研修に励んでまいります。
(5)	豊かな心を育成する道徳の実践、薬物乱用防止教室等の「身を守るための指導」について、これまで計画的に積み上げてまいりました。今後も情報発信をこまめに行い、具体的な実践内容を保護者の皆様と共有できるよう努めてまいります。
(6)	学年が上がるほど数値が低下しており、小学校での習慣を中学校でいかに継続・発展させるかが課題となっています。小学校での取組を教職員間で共有した上で、本校の現状に即した家庭学習のあり方を検討いたします。ご家庭とも「学習のルール」を再共有しながら、お子様たちが自立した学習者として成長できるよう、粘り強く働きかけてまいります。
(7)	各種検定やコンクールは、生徒が自らの力を試す貴重な機会であり、挑戦できる体制を継続して整えております。今回の結果を受け止め、周知方法を工夫し、意欲を引き出せるよう努めてまいります。
(8)	小中一貫校としての教育活動に対し、さらなる連携の深化が重要であると認識しております。来年度より新たに「合同行事(体育祭・学校祭)」がスタートするにあたり、その目的や意義を生徒・保護者の皆様へ周知し、更なる理解と信頼の獲得に努めてまいります。
(9)	「自立する子ども」の育成に向け、まずは全職員で目指すべき子ども像を明確化し、共有を深めてまいります。学校のビジョンを生徒・保護者・地域の皆様へより丁寧に発信することで、共通認識に基づいた一体感のある教育活動を推進してまいります。

2 自由記述(計3件)

- ①自転車置き場の段差の大きさと雨よけについてご意見をいただきました。(施設について1件)
 →ご意見ありがとうございます。より良い環境の中で教育活動を進めていけるよう、段差については春に改善を図れるかどうか検証いたします。雨よけについては、要望を出していきたいと思いますが、屋根が無い自転車置き場の学校が複数あることから改善を図ることは難しいと推察されます。雨予報の日には、徒歩や SB での登下校にご協力ください。
- ②確認テストの実施日の周知についてご要望をいただきました。(学習について1件)
 →各単元の始まりに、生徒には単元計画などでテストまでの見通しを立てられるように示しております。実施日については、2週間前に時間割が確定するため、それ以前に正確な日にちをお知らせすることが難しいことをご理解ください。決まったものについては、tetoru で配信していますが、それ以前の大まかな実施時期については、お子様とコミュニケーションをとっていただき、確認をお願いいたします。
- ③教員の指導や連携不足など学校の管理・責任についてご意見をいただきました。(学校運営について1件)
 →ご意見ありがとうございます。不手際により、保護者の皆様にご迷惑とご心配をおかけしてしまふことがありました。安心して子どもたちが過ごせる学校であるよう、教職員の連携を密に、ダブルチェックの機能を働かせながら再発防止に努めてまいります。また、生徒一人一人に寄り添いながら、心理的安全性が保たれた場所となるよう、ご意見を真摯に受け止め学校運営を行います。

5:十分満足できる 4:おおむね満足できる 3:標準 2:もう少し努力を要する 1:努力を要する

※「自分自身の視点で客観的に学校評価」としてお答え願います。

平均 4.00以上は青色塗りつぶし 3.50~4.00数字のみ 3.50未満は赤色塗りつぶし

昨年度比 0以上は黒字 マイナスは赤字

Table with columns for evaluation items, scores (5-1), and comparison (Average, Last Year, Change). Includes sections like 'I めざす姿', 'II 今年度の重点目標', and 'III 具体的方策'.

(6)働きやすい職場環境の醸成 ◎ 教職員が健康でやりがいを持てる環境づくりと実効性ある働き方改革の推進						5	4	3	2	1		
【考察】時間外勤務(土日を含めた)を減らせる業務内容の精選が必要である。心体のリフレッシュ・健康はもちろん、生み出された時間で生徒と笑顔で関わったり、授業改善に努めたりできるようにしていく。風通しの良い職場になるよう、日常からのコミュニケーションを大切にしていこう。また、教職員も目標・ゴールを持って働くことで働きがいやモチベーションを高めているのではないかと。												
① 児童生徒を徹底して大切に教育の実現に向けた「学校における働き方改革」の充実						0	6	5	1	0	3.42	
② 同僚性と協働性を重視した支え合いと協力によるストレス軽減、業務効率化、職員の健康とモチベーションの向上						0	4	7	1	0	3.25	
③ 「岩見沢市立学校における働き方改革行動計画(第3期)」等を踏まえた働き方改革の推進						0	5	6	1	0	3.33	
④ 「岩見沢市の部活動の在り方に関する方針」に則り策定した「北村中学校の部活動に関する活動方針」等を踏まえた少年団活動・部活動の推進						2	5	4	1	0	3.67	
(7)学校事務の充実 ◎ 教育活動の充実に資する財務管理等の学校事務の充実												
【考察】教育活動に必要な事務処理を高い水準で行えていることが推察される。引き続きお願いしたい。						5	4	3	2	1		
① 学校の課題を踏まえ教育効果を高める効果的・効率的な事務処理の推進						4	7	1	0	0	4.25	
② 短期・中期・長期的な展望に立った積極的な予算の要望や執行						4	8	0	0	0	4.33	
③ 公文書や備品の適切な保管・管理と適正な会計処理の推進						4	7	1	0	0	4.25	
指導の重点 最重点項目:授業づくりで学校づくり「生きる力を確実に育成する授業改善の推進」												
(8)学習指導の充実 ◎ 自立した学習者を育て、資質・能力を育成する指導の改善・充実 ◎ ICTの効果的活用等による「個別最適・協働的な学び」の充実 ◎ 岩見沢型ピア・サポートの学習集団づくりの充実												
【考察】概ね肯定的な回答であった。ICT危機については、「教師が使う」から、「生徒が使う」に変換した授業づくりを行うことで、自立した学習者の育成を図りたい。生徒への単元・本時で身につける「資質・能力」の明示を行うことで、教師と生徒のズレが無く、スムーズにゴールに向かえるのではないかと。						5	4	3	2	1		
① ICT機器を最大限に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、子どもたち一人一人を主語とした授業づくり(自立した学習者の育成)						1	6	5	0	0	3.67	
② 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善による確かな学力の追求						1	8	3	0	0	3.83	
③ 身に付ける資質・能力を明確にし、「授業の基本型」を基盤とした授業の展開						1	9	2	0	0	3.92	
④ 子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開						2	7	3	0	0	3.92	
⑤ 「学習スキルの向上」と「学習ルールの徹底」による児童生徒の学びの形成						1	8	3	0	0	3.83	
⑥ 岩見沢型ピア・サポートを土台とした「傾聴・受容・共感」の信頼関係に基づく学習集団づくり						3	7	1	1	0	4.00	
⑦ 外国語指導助手の効果的な活用と「英語が使える岩見沢の子ども」の育成						3	9	0	0	0	4.25	
⑧ 読書に親しむ習慣や学びに向かう態度を身に付ける読書活動の推進						1	9	1	1	0	3.83	
⑨ 検定・資格試験への積極的な挑戦を奨励し、児童生徒の挑戦心と学習意欲の向上を支援						2	7	3	0	0	3.92	
(9)生徒指導の充実 ◎ 児童生徒に寄り添い自己肯定感を高める指導の充実 ◎ 発達支持的生徒指導、包括的生徒指導の充実 ◎ プロアクティブな生徒指導としてのピア・サポートの充実												
【考察】肯定的な回答が多く、ピア・サポートや教育相談などは発達支持的生徒指導・プロアクティブな指導として効果的であったと言える。いじめ対応についても係を中心に、学年で迅速な対応を行えた結果と言える。不登校対応については、共通行動がとれるよう体制づくりが必要である。						5	4	3	2	1		
① 「学校いじめ防止対策基本方針」に基づく対応、「いじめの積極的な認知」と「いじめ見逃しゼロ」をはじめとした組織的ないじめ対応の充実						2	8	2	0	0	4.00	
② 日常的な教育相談活動等による児童生徒理解の推進						3	9	0	0	0	4.25	
③ 不登校の未然防止及び関係機関との連携等による不登校対応の推進						4	5	2	1	0	4.00	
④ ICT機器の適切な活用を図る。啓発資料・出前授業等による情報モラル教育とメディアリテラシーの向上						2	9	1	0	0	4.08	
⑤ 小中協働によるピア・サポートの推進						5	6	1	0	0	4.33	
(10)道徳教育の充実 ◎ 児童生徒の心に響き人間としての生き方についての考えを深める指導の充実												
【考察】全教職員で全生徒に関わる姿勢と体制が、生徒の心の安心と充実、豊かな心を育むことにつながっていると考えられる。						5	4	3	2	1		
① 生命を大切に、豊かな人間性・社会性を育む「心の教育」の推進						2	8	2	0	0	4.00	
② 「考え、議論する」道徳科を要として教育活動全体を通じて行うしなやかな道徳教育の推進						2	8	2	0	0	4.00	
(11)体育及び健康安全指導の充実 ◎ 児童生徒が主体的に健康の保持・増進に取り組む指導の充実												
【考察】小学校や家庭と連携した運動習慣作り、食育等生活習慣作りが必要である。そのためにも、現状把握を適切に行い、学校だよりや保健だより等を通して必要な情報の発信に努める必要がある。						5	4	3	2	1		
① 新体力テストによる体力の実態把握と体力向上の取組(1校1実践)の推進						1	6	4	0	0	3.73	
② 義務教育9年間を見通した運動の習慣化に向けた取組の推進						1	4	5	1	0	3.45	
③ 望ましい生活習慣の定着や自ら健康管理を行う保健指導等の推進						1	7	3	0	0	3.82	
④ 学校給食を教材とした望ましい食習慣の形成等、家庭・地域等と連携した食育の推進						1	5	5	0	0	3.64	
(12)総合的な学習の時間の充実 ◎ 児童生徒が自ら目標を定め探究課題の解決に取り組む指導の充実												
【考察】年間計画に沿った学習活動できていると推察される。しかし、「3」評価が半数を超えることから、肯定的な回答が増えるような学習活動にしていかなければならない。各学習活動の反省をあげ、改善を図っていく必要がある。						5	4	3	2	1		
① ふるさとに愛着と誇りをもつ「ふるさと教育」や、将来の生き方や望ましい職業観・勤労観を育む「キャリア教育」の推進						1	5	6	0	0	3.58	
② 関係機関との連携や地域の教育資源の活用による学ぶ機会の設定						1	4	7	0	0	3.50	
③ 「マイ・ノート」(キャリア・パスポート)を活用した学習履歴の引継ぎ						1	4	7	0	0	3.50	
(13)特別活動、学級経営の充実 ◎ 児童生徒が様々な集団活動で互いのよさや可能性を発揮する指導の充実												
【考察】概ね肯定的な回答であった。学校規模を生かした、一人一人が主役になることができる特別活動・学級活動、生徒会活動が実施されたことが結果につながったと考えられる。						5	4	3	2	1		
① 支持的・親和的な人間関係を育む「ピア・サポート」の推進とQ-U及びアセスの活用						2	8	2	0	0	4.00	
② 一人一人に寄り添うきめ細かな学年・学級経営による児童生徒と教師の信頼関係の構築						1	9	1	1	0	3.83	
③ 児童生徒のよさや可能性を伸ばし、集団への所属感・連帯感を深め、よりよい人間関係の形成に資する学校行事、児童生徒会活動、クラブ活動・部活動の工夫						2	9	1	0	0	4.08	
(14)特別支援教育の充実 ◎ 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実												
【考察】特別支援学級在籍生徒はもちろん、通常学級に在籍する困難さを感じる生徒に対しても丁寧に対応できていた。困り感や変化に敏感に反応し、保護者との連携と、組織的な対応において適切な支援をどの生徒にも同じように行えることが必要である。						5	4	3	2	1		
① 「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」に基づく指導・支援及び引継ぎの充実						1	8	3	0	0	3.83	
② 校内委員会の機能強化による就学支援、特別支援学校との連携(パートナー・ティーチャー派遣等)、通常の学級に在籍する児童生徒に対する指導・支援の充実						1	7	4	0	0	3.75	
IV今年度の数値目標												
【考察】学力に関する項目が軒並み低下している。学習面においては、既述した内容を取り組んでいくことで向上が図れると考える。学校に起因する不登校の人については、別室登校は数名継続しているものの、不登校自体は減少しており、粘り強い対応の成果と考えられる。19時施設については、毎日多くの職員が残っている訳ではないが、時期に応じて時間外が必要な方がいるのが現状である。適切な役割分担や業務の精選などが必要である。						5	4	3	2	1		
(1) 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国比100以上						0	1	7	2	0	2.42	3.08 -0.67
(2) 標準学力検査(NRT)の学力偏差値を50以上						0	1	6	3	0	2.33	3.08 -0.75
(3) 新体力テストのスコアを全国平均以上						0	1	7	1	0	2.25	
(4) 学校評価保護者アンケートの項目全てで肯定的回答を80%以上、A評価を40%以上						0	1	9	0	0	2.58	
(5) 学校評価児童生徒アンケート項目の全てで肯定的回答を80%以上、A評価を40%以上						1	1	8	0	0	2.75	
(6) 授業アンケート(児童生徒対象)項目の全てで3.5ポイント以上						1	2	7	0	0	2.83	3.17 -0.33
(7) 家庭学習時間、小学生「学年×10分+10分」、中学生「学年×20分+60分」の達成率を100%						0	1	3	6	0	2.08	2.83 -0.75
(8) 学校に起因する不登校児童生徒を0人						0	1	5	3	1	2.17	
(9) いじめ調査アンケートの児童生徒の回答で「誰にも相談しない」項目の回答数を0人						0	1	7	2	0	2.42	
(10) 19:00施設(月平均)						1	1	4	4	0	2.42	3.25 -0.83